

「フォーマルウェアのルールはだれが決めるのだろうか？」

正式な外交の場でのプロトコル(国際儀礼)を別にすれば、日本では、アパレル、百貨店、ブライダルサービス業者などが、具体的なガイドラインと服装を提案してきた。

グローバルな視点から日本のルールを俯瞰すると、日本独自の特徴が3つあることがわかる。

まず、時間帯によって服を着分けるという発想がないこと。次に、媒酌人の男性がモーニングなのに女性が留袖を着用するなど、洋装と和装が混在していること。

3つ目として、ブラックスーツの略礼装があること。

男性の黒いスーツに白いネクタイという慶事の装いは、戦後、物資が乏しかった時期に日本のアパレルメーカーが提案した、日本だけで通用する略礼装である。

時代は進み、海外との交流やクルーズ旅行などの機会が増え、世界基準のフォーマルウェアに対する需要が増えている。年号も切り替わる。

新時代にふさわしいフォーマルのルールを作るチャンスは、まさしく今なのだ。



服飾史家 中野香織氏

中野香織氏 プロフィール

服飾史家として男女ファッション史から最新モード事情まで研究・執筆・講演をおこなうほか、企業の顧問を務める。

一般社団法人日本フォーマルウェア文化普及協会顧問。

日本経済新聞、読売新聞、北日本新聞などで連載記事を執筆中。

著書『紳士の名品50』(小学館)ほか多数。

公式HP www.kaori-nakano.com